

# 平成26年度病害虫発生予報第9号

平成26年12月1日  
愛知 県

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺 数は平年並	± ±
キャベツ	菌核病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の降水量は平年並が多い	± ±～+
	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺 数は平年並	± ±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない 12月の日照時間は平年並か少ない	— ±～+
	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	—
	コナジラミ類	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない 12月の日照時間は平年並か少ない	— ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	—

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない 12月の日照時間は平年並か少ない	－ ±～＋
	うどんこ病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い 12月の日照時間は平年並か少ない	＋ ±～＋
	ハダニ類	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い	＋

### ・防除対策

#### 〔イチゴ（施設）・うどんこ病〕

発病した果実や不要な果柄は見つけ次第摘み取り、ほ場から持ち出して適切に処分しましょう。発病を確認したほ場ではアフェットフロアブルやトリフミンジェットなどで防除しましょう。また、硫黄粒剤などを用いて予防に努めましょう。

#### 〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

本日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

### ・留意事項

キャベツの菌核病は、平年並の発生ですが、過去3年と比較すると多い発生状況です。発病株は伝染源となるので、早めに抜き取り適切に処分しましょう。

ハクサイの軟腐病は多い状況です。発病株は伝染源となるので、早めに抜き取り適切に処分しましょう。

トマトでは、タバココナジラミがトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分しましょう。

施設野菜の灰色かび病は、例年気温が低下するこの時期から発生が多くなります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて適切に処分しましょう。

## 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台11月27日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈特に注意を要する事項〉

1週目後半から2週目前半にかけては、気温がかなり低くなる可能性があります。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：30% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

### 「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。